

# 「農林水産業競争力アップ技術開発事業」で実施中の研究テーマ一覧

## 農業試験場

研究テーマ(実施期間)	研究概要
品質向上と早期収穫によるニンニクの高収益安定生産技術の開発 (R3~R5)	 <p>品種や気候条件に対応した品質向上技術と高価格が狙える出荷時期の前進化技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不良球(裂球、中心球)の発生防止技術</li> <li>・種球の低温処理による早期収穫技術と適切な定植時期</li> </ul>
辛みのないシシトウ県オリジナル新品種‘ししわかまる’の高収益栽培技術確立 (R4~R6)	 <p>シシトウ‘ししわかまる’の収量及び秀品率向上に向けた栽培技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枝の誘引・整枝技術の検討</li> <li>・養分吸収特性を基にした肥培管理技術</li> </ul>
葉かび病からブランドミニトマトを守るための緊急対策 (R4~R6)	 <p>ミニトマト葉かび病の発生生態を解明し、防除対策を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生生態調査による防除適期の解明</li> <li>・薬剤及び耕種の防除の効果検証</li> </ul>
イチゴ‘まりひめ’高品質・多収に向けた環境制御時の効率的な養水分管理技術開発 (R5~R7)	 <p>高設栽培での糖度安定化と増収を可能とするための環境制御に応じた給液管理を確立し、マニュアル化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な日射比例式給液の開発</li> <li>・時期別の適正な給排水EC管理の確立</li> </ul>
イチゴ‘まりひめ’の炭疽病対策 (R5~R7)	 <p>炭疽病対策として、病原菌感染リスクの低い親株育成方法を確立し、マニュアル化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染リスク評価に基づく親株育成時期の検討</li> <li>・感染リスクが低い時期の親株栽培管理手法の確立</li> <li>・薬剤による効果的な感染予防方法の確立</li> </ul>

## 暖地園芸センター



環境制御下での高精度ミニトマトの安定生産技術開発 (R3~R5)	 <p>高品質果実増収のための生育管理基準、環境制御技術、着果管理技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育状況を客観的に判断する生育基準の開発</li> <li>・裂果軽減のための温湿度管理技術</li> <li>・適正サイズ生産のための着果管理技術</li> </ul>
ハウス実エンドウにおける品質不良莢・病害抑制のための温湿度制御技術開発 (農業試験場と共同研究) (R5~R7)	 <p>品質不良莢・病害抑制のための温湿度制御技術を開発し、マニュアル化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質不良莢・病害抑制のための温湿度条件の解明</li> <li>・温湿度制御手法の確立</li> </ul>

## 果樹試験場

極早生ミカン‘YN26’の安定生産技術の確立 (R3~R5)	 <p>‘YN26’の障害果の発生要因を解明し、対策技術及び高品質果実生産技術を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害果(日焼け果、裂果)発生と圃地条件との関係</li> <li>・着果部位と障害果発生、果実品質の関係</li> <li>・適正な摘果、水分管理による高品質生産技術</li> </ul>
-----------------------------------	---




<p>ウンシュウミカン新品種‘あおさん’の栽培体系の確立 (R4～R6)</p>		<p>新品種‘あおさん’の栽培特性を解明し、地域に応じた栽培体系を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象条件に応じた適切な収穫時期の解明</li> <li>・貯蔵特性、果実品質、肥大特性の解明</li> </ul> </p>
<p>県オリジナル中晩柑‘はるき’の産地化に向けた幼木、着果及び貯蔵の管理技術の確立 (R4～R6)</p>		<p>‘はるき’の初期生育の安定化、果実の安定生産、出荷期間延長のための管理技術を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼木の栽培管理技術の確立</li> <li>・包装資材等の検討による貯蔵管理技術の確立</li> </ul> </p>
<p>傾斜地果樹園における省力的施肥技術の開発 (かき・もも研究所、うめ研究所と共同研究) (R5～R7)</p>		<p>ドローン散布向け果樹用の高成分肥料を開発し、自動航行ドローンを用いた傾斜地における施肥技術を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローン用肥料の開発</li> <li>・傾斜地園でのドローン肥料散布方法の確立と実証</li> </ul> </p>
<p>カンキツにおけるドローンを用いた夏季の防除体系の確立 (R5～R7)</p>		<p>ドローンによるミカンハダニの夏季の防除体系を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種殺ダニ剤のドローン散布による防除効果及び散布条件の解明</li> <li>・薬剤の高濃度混用による防除効果、薬害の検証</li> </ul> </p>
<p>立木とネットを利用した軽量のシカ捕獲用囲いワナの開発 (R5～R7)</p>		<p>高強力ポリエチレン繊維ネットと立木を利用し、軽量で設置容易な囲いワナを開発し、マニュアル化する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規囲いワナの開発・改良および捕獲効果の検証</li> <li>・安全性の高いシカ保定技術の開発</li> </ul> </p>
<p>EUへの輸出に対応したサンショウの病害虫防除体系の確立 (R5～R7)</p>		<p>EU農業残留基準値に適合した、実用性のあるサンショウの病害虫防除体系を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的防除技術等の有効性の検討</li> <li>・農業残留基準値を超過しない収穫時期の解明</li> </ul> </p>

### かき・もも研究所



<p>特定外来生物クビアカツヤカミキリの緊急防除技術の確立 【うめ研究所、林業試験場との共同研究】 (R3～R5)</p>		<p>クビアカツヤカミキリによる被害の早期発見技術と有効な防除手法を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・DNA分析、非破壊検出法を用いた被害の早期発見技術</li> <li>・効果的な薬剤防除法(時期、散布方法、薬剤)</li> <li>・ネット等による物理的防除法</li> </ul> </p>
<p>市場が求める優良モモの商品性向上のための栽培技術開発 (R3～R5)</p>		<p>ギフト商材として高単価が期待できるモモ「つきあかり」の高品質大玉果安定生産技術を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・枝梢管理、高接ぎ等による果実肥大促進技術</li> <li>・UVカットフィルム果実袋、非破壊振動装置による適熟判定方法の開発</li> </ul> </p>

<p>カキ炭疽病の効率的防除対策の確立 (R5～R7)</p>		<p>カキ炭疽病の効率的な防除対策を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・発病リスクに基づく、発病残渣の簡便な処理方法の確立</li> <li>・病原菌の菌種構成の解明、菌種に応じた有効薬剤の選定およびほ場での防除効果の解明</li> </ul> </p>
<p>極早生「たねなし柿」の流通中に生じる早期軟化対策技術の確立 (R5～R7)</p>		<p>極早生「たねなし柿」の流通中に生じる早期軟化対策技術を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・1-MCPおよび有孔ポリ+防湿段ボールによる総合的な軟化対策の確立</li> <li>・AIによる早期軟化果実の予測判別技術の開発</li> </ul> </p>


うめ研究所

<p>‘露茜’安定生産のための樹勢強化および肥培管理技術の開発 (R3～R5)</p>		<p>赤色で加工原料として注目のウメ‘露茜’の安定生産のための新しい仕立て法及び肥培管理法を確立する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・省力的な片側一文字仕立て法、強勢品種の高接ぎによる樹勢強化技術</li> <li>・安定生産のための肥培管理技術の開発</li> </ul> </p>
<p>ウメの新害虫ヒメヨコバイの緊急防除対策技術の開発 (R4～R6)</p>		<p>新たな害虫モモヒメヨコバイによる葉の吸汁被害抑制に向けた防除対策技術を開発する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・害虫の発生生態、樹体への影響の解明</li> <li>・防除体系(有効薬剤、防除適期)の確立</li> </ul> </p>
<p>温暖化に対応した梅干の高品質化技術の開発 (R5～R7)</p>		<p>温暖化に対応した新たな梅干のハウス干し方法を提示し、梅干の高品質化を図る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・遮光、遮熱資材の利用が梅干品質に及ぼす影響</li> <li>・乾燥時の温度および光強度の違いが梅干の機能性成分に及ぼす影響</li> </ul> </p>

畜産試験場




<p>熊野牛の暑熱ストレス下での受精卵の増産および移植受胎率向上技術の開発 (R3～R5)</p>		<p>母牛の夏期の採卵成績を改善する暑熱ストレス緩和技術、受精卵移植時の受胎率を向上させる技術を開発する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライミスト噴霧による暑熱ストレス緩和技術</li> <li>・ショ糖合リン酸緩衝液を利用した受胎率向上技術</li> </ul> </p>
<p>梅加工副産物を用いた高品質豚肉生産技術の開発 (R4～R6)</p>		<p>梅酢添加飼料の豚への影響を解明し、「紀州うめぶた」の高品質生産技術を開発する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅酢添加飼料で肥育した豚肉の特性解明</li> <li>・飼料配合の組合せによる豚への影響解明</li> </ul> </p>

養鶏研究所


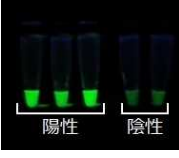



<p>‘龍神コッコ’を基にした新たな肉専用3元交雑鶏の開発 (R3～R5)</p>		<p>高い増体性能を有し鶏肉成分や味に特徴のある肉専用鶏を作出する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県固有種‘龍神地鶏’を基に開発した交雑種に肉用種鶏を掛け合わせた3元交雑鶏を作出</li> <li>・作出した3元交雑鶏を効率よく肥育するための飼育方法を開発</li> </ul> </p>
---	---	--



## 林業試験場

<p>大径材から生産される製材ラミナを活用した紀州材接着重ね梁の開発 (R3~R5)</p>		<p>高樹齢化が進み、今後活用が望まれる大径材から生産される製材ラミナを活用した接着重ね梁の製品化に向けた技術開発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接着重ね梁の製造(県内企業との共同研究)</li> <li>・接着性能、強度性能の試験</li> </ul>
<p>クマノザクラの保全と活用に向けた雑種判定と効率的育成手法の開発 (R4~R6)</p>		<p>純系クマノザクラの保全技術を確立するとともに、植栽地での育成技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形態及び遺伝子解析による雑種判定技術</li> <li>・灌水・施肥方法等による苗木の早期伸長技術</li> </ul>
<p>ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」防除技術の早期確立 (R4~R6)</p>		<p>ヒサカキの新たな病害への対策として、薬剤による防除技術を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤による防除方法の確立</li> <li>・防除適期の解明</li> </ul>

## 水産試験場

<p>シロアマダイの種苗量産技術の開発 (R3~R5)</p>		<p>高級魚シロアマダイの放流用種苗を量産化する技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受精卵確保のための親魚養成技術の開発</li> <li>・受精率が高い人工授精方法の開発</li> <li>・生残率の高い種苗育成方法の開発</li> </ul>
<p>魚類病害微生物の定量的検出技術の開発 (R3~R5)</p>		<p>海面養殖で問題になっている魚病(エドワジエラ症、マダイイリドウイルス病等)の病害微生物をLAMP法によって迅速かつ正確に検出する技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマー(検出するDNA配列)の設計</li> <li>・反応条件(DNA増幅時の最適な温度、時間)の検討</li> <li>・濁度測定によるDNA濃度推定技術</li> </ul>
<p>アカモク藻場造成技術の開発 (R4~R6)</p>		<p>人工種苗による効率的なアカモク藻場の造成技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工種苗生産技術の開発</li> <li>・天然海域への種苗移植時期と生残率等の解明</li> </ul>
<p>抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発 ~効果と普及性向上~ (R4~R6)</p>		<p>ワクチン接種及びクエン酸ナトリウム投与によるアユ冷水病防除技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種条件による効果検証</li> <li>・クエン酸ナトリウム投与濃度による効果検証</li> </ul>
<p>アジアカエビの養殖技術の開発 (R5~R7)</p>		<p>アジアカエビの養殖技術を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種苗量産技術の開発</li> <li>・養殖技術の開発</li> </ul>